

授業実践 3 の考察

1 授業における生徒の変容

生徒は、明治政府の 3 つの政策を、日本の国力向上に効果のあった順に順位付け、その理由を記述した後に対話的活動を行っています。対話的活動の前後で記述内容が変化しているか検証しました（表 1）。

表 2 の判定基準を基に、「対話的活動前の考え」と「対話的活動後の考え」を比較すると、「対話的活動後の考え」において、A 評価の生徒は 12.5 ポイント、B 評価の生徒は 31.3 ポイント増加していました。また、C 評価の生徒は、43.8 ポイント減少していました。次頁資料 1 は、対話的活動の前後で順位付けが変わらなかったものの、その理由がより詳しく変容した生徒のワークシートの記述です。対話的活動前は、自分の思いからのみ理由を記述していましたが（C 評価）、対話的活動後は、資料から読み取った事実を基に教育面での理由と、財政面・軍事面での理由とを関連付けながら政策の効果について考えを記述しています（A 評価）。C 評価から A 評価へと高まったのは、この生徒のみでしたが、対話的活動を通して自身の考えが整理されたり、新たな根拠に気付いたりすることができるようになったのではないかと考えられます。班の代表者による班の意見の発表後、再び個人で自分の考えをまとめるなど、対話的活動後の比較を生徒にさせたことが、考えの深まり、広がりにつながったと考えます。

しかし、無記入のまま提出されたワークシートも散見されました。班全員の考えを 1 つにまとめるという活動に困難さを感じる生徒がいることも一因として考えられます。対話的活動の方法については、今後、検討の余地が残りました。

表 1 ワークシートの記述の評価（n=16 人）

評価	対話的活動前の考え	対話的活動後の考え
A	12.5%（2 人）	25.0%（4 人）
B	18.7%（3 人）	50.0%（8 人）
C	68.8%（11 人）	25.0%（4 人）

表 2 ワークシートの判定基準

A	資料から考えの根拠となる事実を読み取って、読み取った事実と知識を活用しながら、複数の視点で 3 つの政策を比較している。
B	資料から考えの根拠となる事実を読み取って、読み取った事実と知識を活用しながら、1 つの視点で 3 つの政策を比較している。
C	B に達していない。

30年後の日本の国力向上に効果のあった政策はどれだろうか？効果のあった順番に記入しよう。

① 教育制度 ⇒ ② 財政制度 ⇒ ③ 徴兵制度

理由を論理的に書こう。

自分にとって
今の時代、教育が1と2よりも最初に始まり、教育がないと国力向上につながらないと思いたし、一番、今効果があると思う

【対話的活動前】（C評価）

★ 班での協議後、統一した見解の順番を書きなさい。

① 教育制度 ⇒ ② 財政制度 ⇒ ③ 徴兵制度

なぜそのような順番になったのか？その理由をすべて論理的に書いてみよう。

土台となる教育がしっかりしていないと財政のことや軍の事も中からなれないと思うから。そして日本が成長していくためには幼い頃から様々なことを学習すること優秀な人材が増え国力の向上につながると思うから。②資金がないと国におき国家的なことを行う事ができないから。③戦争に行きたくなくて強制的に行かなければいけないから。

【対話的活動後】（A評価）

資料1 ワークシートの記述の変容

2 評価問題の分析

評価問題の問いは、「明治政府が実施した『徴兵令』と『地租改正』の2つの政策について、農民にとって負担が重かったのはどちらか？」でした。配付した資料から考えの根拠となる事実を読み取って、読み取った事実と知識を活用しながら、複数の視点で2つの政策を比較して論じることを目指しました。判定基準は、検証授業と同様の内容を設定しました（次頁表4）。

次頁表3の結果より、「資料から考えの根拠となる事実を読み取って、読み取った事実と知識を活用しながら、複数の視点で2つの政策を比較している」A評価の生徒は26.1%、「資料から考えの根拠となる事実を読み取って、読み取った事実と知識を活用しながら、1つの視点で2つの政策を比較している」B評価の生徒は47.8%でした。授業実践の「対話的活動前の考え」において、A評価の生徒が12.5%、B評価の生徒が18.7%、「対話的活動後の考え」において、A評価の生徒が25.0%、B評価の生徒が50.0%であったことを鑑みると（前頁表1）、授業実践での取組の一定の成果が表れているのではないかと考えられます。C評価の生徒でも、解答欄に200字以上で記述しなければならない基準をクリアできていない生徒はいませんでした。ただし、C評価の生徒の記述は、次頁資料2のように資料の事実に基づかず、自身の思いでのみ理由を書いているものが多く見られました。

評価問題の結果から、B評価の生徒については、多様な視点に生徒自身が気付くことができるよう、教師が計画的に資料を準備しておくことが必要だと考えられます。また、C評価の生徒については、そうした視点の示唆に加え、基礎的な歴史の知識や資料の読み取りに関する技能を定着させる必要があると考えます。そうすることで、習得した知識を活用して、複数の視点から論述していくことができるようになるのではないかと考えます。

表 3 評価問題の記述の評価 (n=23 人)

評価	割合
A	26.1% (6 人)
B	47.8% (11 人)
C	26.1% (6 人)

表 4 評価問題の判定基準

A	資料から考えの根拠となる事実を読み取って、読み取った事実と知識を活用しながら、複数の視点で2つの政策を比較している。200字以上で記述している。
B	資料から考えの根拠となる事実を読み取って、読み取った事実と知識を活用しながら、1つの視点で2つの政策を比較している。200字以上で記述している。
C	Bに達していない。

徴兵令が農民にとって、負担が重かったと思います。成人男性のすべての人が戦争に備えなければいけないからです。男子の人数が減っていくと、女子の仕事が増え、大変だと思います。

資料 2 生徒の評価問題の記述 (一部抜粋) (C評価)

3 学習に関するアンケートの分析

検証授業前、事前調査として学習に関するアンケートを四件法で実施し、検証授業後、事後調査として同様のアンケートを実施しました (表 5)。

表 5 学習に関するアンケートの質問項目

1	学習している内容について、課題や目標を意識しながら授業を受けている。	8	話合いの中で、自分の考えが広がったり、深まったりしている。
2	学習している内容について、「なぜだろう」と考えながら授業を受けている。	9	疑問があれば、先生や友達に質問している。
3	学習した内容について、理解できている。	10	興味や疑問をもったことについて、自分から本や資料、インターネットで調べている。
4	学習している内容について、既に学んだ内容と関連付けて考えている。	11	ペアやグループでの学習活動 (話合い等) をしたいと思っている。
5	理由や根拠を基に自分の意見を発言したり、記述したりしている。	12	11のように答えた理由を記述してください。
6	話合いをするときは、相手の考えを知ろうとよく聞いている。	13	学習した内容が、日常生活の中で新たな気付きにつながったり、役立ったりしている。
7	話合いの中で、自分の考えと他者 (友達、先生等) の考えを比較したり、関連付けたり、共通点や相違点を見付けている。	14	13について具体的に記述してください。

次頁図 1 は、事前調査と事後調査の選択肢ごとに重みを付け、平均した数値をグラフ化したものです。なお、質問 12, 14 は、それぞれ質問 11, 13 の理由を記述式で尋ねているため、次頁図 1 では省略しています。事前と事後で、結果に大きな変化は見られませんでした。質問 7 「話合いの中で、自分の考えと他者の考えを比較したり、関連付けたり、共通点や相違点を見付けている」では、「当てはまる」と回答した生徒がわずかに増加していることから、今後も対話的活動を取り入れた実践を継続することで、ほかの項目についても高まっていくものと考えます。

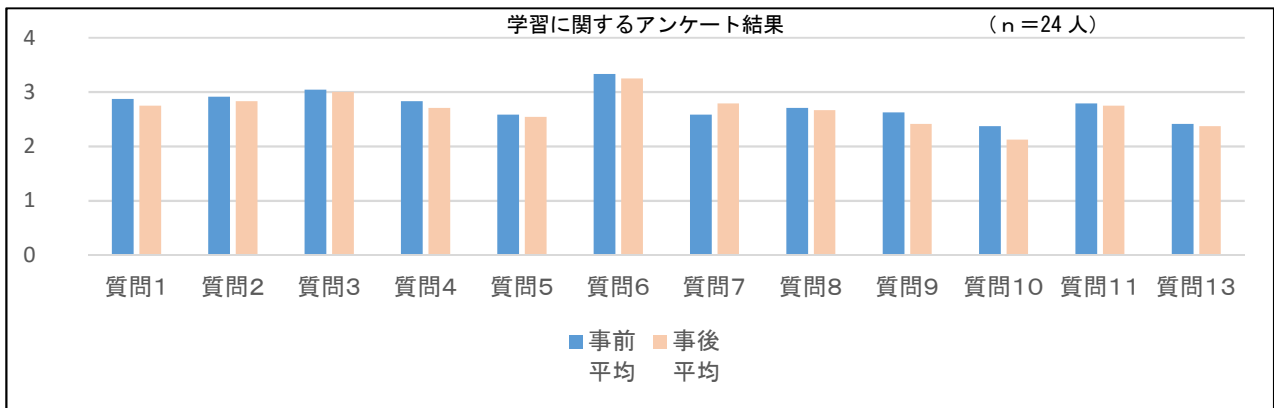


図1 学習に関するアンケートにおける事前と事後の変化（平均値）

4 学習課題（問い）の設定による効果

学習課題（問い）として、「明治政府の実施した制度で、30年後の国力向上に一番効果のあったのはどれだろうか？」を設定しました。正解のない順位付け及びその理由を問うことにより、生徒の多様な考えが出やすいようにしました。対話的活動によって、資料を基に様々な側面から考えや根拠を伝え合わせることで、議論を活発化させることをねらいました。

本研究においては、最初の時間で、対話的活動のテーマに当たる3つの制度の復習を行って、2時間目から本題に入りました。問いを設けることで、学習活動の目的が明らかになり、生徒が取り組む目標が理解され、活動がしやすくなったと考えます。活動中、生徒は自分たちなりに対話的活動を学びのツールとして活用しており、現代に対応する制度と明治維新期の各制度と比較したり、関連付けたりしながら議論を展開していました。班のほかの生徒に理解を求めようと、資料に根拠を求めたり、自身の考えを熱心に伝えたりする姿も見られました。しかし、一面的な価値観による偏った発言も一部聞かれ、基礎的な知識を確実に定着させることの重要性を実感しました。また、発言力のある生徒の意見に流されてしまう生徒も見受けられました。正解のない学習課題（問い）である場合、生徒から出た様々な考えを教師がどのように把握し、集約していくのが、大変難しいと実感しました。

今回の実践では、学習課題（問い）の文言が不明瞭だった（「30年後」は、どの時点からか）ために、対話的活動が停滞する班も見受けられました。教師自身のファシリテーターとしてのスキルを、今後、高めていく必要があると考えました。